

【ニュース】

7月20日 日経DIに「喘息バッジ運動」の記事掲載

<https://medical.nikkeibp.co.jp/inc/all/di/>

薬局が作った「喘息バッジ」

咳に悩む患者も安心して外出を

2020/07/20

河野 紀子=日経ドラッグインフォメーション

呼吸器

気管支喘息 喘息バッジ COVID-19

印刷

シェア 141

ブックマーク 0

ツイート

咳をするのにも人の目が気になる——。新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の感染拡大で、気管支喘息の患者などからこう相談されることはないだろうか。

スター薬局大野原店（香川県観音寺市）では、2020年6月から、薬局のスタッフがデザインした「喘息バッジ」（写真1）を作成し、来局した患者に無料で配布し始めた。7月以降はチェーン内の全12店舗でも配布し、好評を博している。



写真2 カウンターに置いたバッジ
服薬指導の際に、患者の目に触れやすい場所に置いている。

そうした中で、ある患者が「私は喘息患者です」と書かれた自作のバッジを付けて来局。それをヒントにスタッフで話し合い、薬局でバッジを作って患者に配ることになった。浦上氏は「患者に安心して外出してもらいたい。また、『喘息は感染しない』と地域の人に知ってもらう目的もある」と話す。

当初は通信販売の「アスクル」でバッジの留め金部分を購入し、スタッフが書いたイラストを差し込んだ手作りだったが、取り組みを知ったスター薬局（高松市）社長の山本和幸氏が外部の業者に頼んで缶バッジを作ろうと提案。700個をまとめてオーダーした。バッジの制作費は1個当たり65円。今後はCOPD患者向けなどイラストのデザインを増やしていく考えだ。

患者からは、外出しやすくなったと歓迎する声はもちろん、「友人と会うとき、喘息についていちいち説明しなくて済むので便利」「遠方に住む娘が喘息で、電車通勤で気を遣うというので、送ってあげたい」「手作りですごい。気持ちが伝わる」などといった意見が寄せられたという。

今回の取り組みには、スター薬局大野原店に実務実習に来ている薬学生も関わった。徳島文理大学薬学部5年の守谷縁氏（写真3）は、「咳が出る患者は普段から日常生活で困ることが多くあり、特に新型コロナウイルスの流行下では、今まで以上に困っていることが分かった。思いやりの心を形にすることの大切さを実感した」と話す。

浦上氏は「こうした状況の中でも、薬局薬剤師として患者さんや地域にいかに関与できるか知恵を絞るかが重要。今後も様々な気付きの中から、薬局ならではの視点で積極的に取り組んでいきたい」と話している。



写真3

バッジの制作に関わった、実務実習生で徳島文理大学薬学部の守谷縁氏。